

平成 29 年 6 月 19 日現在

機関番号：32508

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2012～2016

課題番号：24330214

研究課題名（和文）アジア比較に基づく基礎教育課程の「一貫制」に関する理論的・実践的研究

研究課題名（英文）Theoretical and practical research on "continuity" of basic curriculum by the comparative study in Asia

研究代表者

田中 統治（TANAKA, TOJI）

放送大学・教養学部・教授

研究者番号：40128046

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,900,000円

研究成果の概要（和文）：国際学力調査OECD-PISAで上位を占めるアジア諸国・地域の基礎教育課程（初等・中等教育課程）の「一貫制」を比較調査した結果、生涯学習者の育成を目指して、K-9やK-12等の全体的視野から段階的に国家基準を構成し、教科領域等を整理しつつ、学校裁量の工夫枠を設けていることが分かった。日本の小中一貫・連携教育においても将来の生涯学習を見通して基礎教育課程・教師教育・学校経営の三者一体的な視点からのカリキュラム・マネジメントが必要である。

研究成果の概要（英文）：The objectives of this theoretical and practical research is to explore the features of "continuity" of basic curriculum by the comparative study in Asia. We found the features as follows; Many of the countries which attained high score in PISA set 21st educational goals to develop competent life-long learners. The central governments designed the K-9 or K-12 basic curriculum from holistic and integrated perspectives for life-long learning society. They reorganized school subjects and learning area for students to study deeply and smoothly. Each of schools and teachers could organize parts of curriculum within their discretion. We need Japanese style of "integrated" curriculum management to coordinate totally each system of curriculum, teacher training(OJT), and school management for next type of life-long learning.

研究分野：教育学

キーワード：教育課程 一貫制 アジア 小中一貫教育 カリキュラム・マネジメント 生涯学習

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本の義務教育課程では小中と中高の一貫教育が混在し、「生きる力」と生涯学習への見通しも十分明確にされていない。その原因の一つに教育課程を全体的に捉える視点の弱さがある。異校種間の教育課程をどうつなぐかという「接続」(articulation)は議論されても、その問題を初等教育から高等教育さらに生涯教育まで見通して全体的に論及されることは少ない。生涯学習の充実にとっては、小中一貫と中高一貫の教育課程のどちらが有効であるのかといった議論を行う以前に、そもそも基礎教育課程の一貫制を教育目標の観点からどう把握し、それをいかに保証すべきであるのかという点について、原理的・理論的な検討から始める必要がある。

(2) 先行例を見れば、日本カリキュラム学会が創設 20 周年記念公開国際シンポジウム「日中韓のカリキュラム研究の成果と課題」において、過去 20 年間の 3 国の教育課程改革を振り返り、理論と実践をつなぐ上で「エビデンス(証左)に基づく研究」の必要性が確認された。また科研費による研究「日韓中における学校カリキュラム開発モデルの再構成に関する研究」が明らかにした点として、3 国は、2008 年改訂学習指導要領の「カリキュラム・マネジメント」(日本)、2009 年改訂教育課程の「学校単位責任経営:SBM」(韓国)、及び 2001 年基礎教育課程改革綱要の「校本課程」(中国)といった方針が示すように、地方と各学校が自律的・組織的にカリキュラムを改善するためのモデルを採用している。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、OECD の PISA 調査で上位を占めるアジア諸国の基礎教育課程に注目し、各国における「一貫制」の特質を「教育課程」「学校経営」「教師教育」の三観点より明らかにした上で、最終的にはそれら三つの観点を総合させて、日本の小中一貫教育に

対する具体的な提案を試みることである。

(2) 理論研究では、教育目標の類型から教育課程、学校経営、及び教師教育の三観点を相互に関連づける一貫制の枠組を構築する。実践研究ではこの枠組から調査・分析したアジア比較研究の研究成果に基づき、日本で展開される教育課程、学校経営、及び教師教育の実践に関して一貫制を質的に保証する方策を提案する。

3. 研究の方法

(1) 基礎教育課程の「一貫制」に関するアジア比較の枠組みを設定し、3 グループに分けて文献研究と講演会を行う。

(2) アジア比較による論点の抽出と整理を行う。基礎教育課程に一貫制を生み出すためのシステムを調査する。実践的研究として茨城県つくば市を中心に学校調査を実施する。

4. 研究成果

(1) 2016 年度は、延長申請した最終年度の目標である、電子ブックによる最終報告書を作成した。その構成は、投稿論文、座談会記録、第 1~7 回研究会アジア比較講演の資料(台湾、韓国、シンガポール、中国、香港、タイ他)、学会発表資料、及びその他の資料の順である。最終報告の中で 2 回の座談会形式による討論の記録を掲載した。その主な結論は、アジア諸国の多くが、生涯学習者の育成を目指して基礎教育課程の目標を再規定していること、教育課程を K-12 等の全体的視野から段階的に構成していること、生涯学習に向けて教科領域の整理・統合を図っていること、及び基礎教育課程の一貫制を強固にするため工夫改善の枠を設けていることである。以下、個別に説明する。

(2) アジア各国は 90 年代に 21 世紀を展望した教育目標を設定したが、その多くは「生

涯学習力」の育成を目指すものである。設定された教育目標を見れば、従来の価値重視型から結果重視型へ、伝達重視型から経験重視型へ大きく転換を図っている。この転換はアジア諸国が抱える社会変動と関連づけて考える必要がある。基礎教育課程において一貫制を確保しようという政策意図は当該国を取り巻く社会状況と不可分であって、状況認識の在り様が教育改革に関する理論モデルの選択に影響するからである。

(3) グローバル化への対応を迅速に行った代表事例として、台湾と香港が行った教育課程の目標転換の特徴(図1)について述べる。

図1： 台湾と香港に見る基礎教育課程の一貫制	
台湾	香港
理念第5： 生涯学習者となる 主体的探究，問題解決 情報と言語運用	目標： 生涯学習者となる 共同の知を構築 学ぶことを学ぶ
枠組： 9年一貫制課程 特色ある校本課程 (20%)	枠組： 中央課程・校本課程 8つの学習領域
特徴： 12年一貫課程へ 教科制でなく，領域制	特徴： 9年一貫教育 + 高校教育 教科教育でなく，領域教育

「学び方を学ぶ」(Learning to learn)や「自立的・自律的な学習者」(Independent and autonomous learners)の標語が示すように、児童生徒が将来「生涯学習者になる」ことを教育目標に明記していることである。そのために、情報と言語運用や、共同の知の構築などが強調される。

(4) 注目点は教科科目から領域に統合した

シンプルな構造を採用したことである。台湾の場合、98年版9年一貫教育課程の枠組において、語文、数学、社会、自然・生活科技、健康・体育、芸術・人文、及び総合活動の7学習領域を設けたが、コア部分も含めて裁量権を各学校に置いている。香港の場合、自立した生涯学習者に必要な9つの学習スキルを整理し、基礎知識は教科でなく8つの学習領域(Key learning Areas: KLAS)に仕分けして、これらを組み込む形で構成している。台湾や香港の場合に典型的な教育目標の転換は、教育課程の領域(scope)と配列(sequence)を再構成し、高等教育まで一貫させる教育課程を生み出すだろう。そこには学力観の転換にとどまらず、基礎教育課程の一貫化と環境整備という全体設計が見出せる。

(5) 日本の教育改革には教育課程の一貫制をホーリスティック(全体論)に考える視点の再構築が求められる。異校種間の連携・接続に狭く焦点付けているからである。「自立した生涯学習者を育てる」目標を達成するには、K-12あるいはK-16といったスケールで「鳥瞰図」を描くことが必要である。その一貫制を確保する上で学校現場にどの程度の裁量をもたせ自律的な学校運営を支援すればよいかという実践的な課題があって、教師たちにとって教育課程・学校運営・研修活動を三位一体で展開できるようなシンプルさが求められる。アジア各国は、教育実践のモデル地区やモデル校を中心にカリキュラムの一貫制を創出する段階へ移行している。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計10件)
田中 統治、上海市における附属学校の役割と課題、東アジアの学校教育(上海・スタディツアー)、査読無、2016、49 - 52
田中 統治、私のカリキュラム研究、筑波大学教育学系論集、査読有、40巻1号、2015、101 - 110

田中 統治、教育課程の「一貫制」を探る
カリキュラム研究、関東教育学会紀要、査
読有、42号、2015、25 - 34

根津 朋実、台湾の前期中等教育における
『団体活動』の特色、日本特別活動学会紀
要、査読有、23巻、2015、31 - 39

田中 統治、新年度の教育課程の作成、教
育展望(財団法人教育調査研究所)、査読無、
61 - 2、2015、4 - 10

田中 統治、高校・大学で育成すべき資
質・能力とは、教育展望(財団法人教育調
査研究所)、査読無、60 - 7、2014、32 - 36

田中 統治、アジア比較に基づく基礎教育
課程の「一貫制」に関する理論的・実践的
研究()、筑波教育学研究、筑波大学教育
学会、査読有、12号、2014、5 - 17

〔学会発表〕(計11件)

田中 統治、アジア比較に基づく基礎教育
課程の「一貫制」に関する理論的・実践的
研究()、日本高校教育学会、2015年7月
18日、筑波大学(茨城県・つくば市)

田中 統治、アジア比較に基づく基礎教育
課程の「一貫制」に関する理論的・実践的
研究()、日本カリキュラム学会、2015年
7月5日、昭和女子大学(東京都・世田谷区)

根津 朋実、台湾の前期中等教育における
『団体活動』の特色、日本特別活動学会、
2014年8月24日、福岡教育大学(福岡県・
宗像市)

田中 統治、アジア比較に基づく基礎教育
課程の「一貫制」に関する理論的・実践的
研究()、日本カリキュラム学会、2014年
6月29日、関西大学文学部(大阪府・吹田
市)

田中 統治、アジア比較に基づく基礎教育
課程の「一貫制」研究について、筑波大学・
東南アジア教育大臣機構 SEAMEO 国際シン
ポジウム、2014年2月22日、筑波大学国
際会議場(茨城県・つくば市)

田中 統治、アジア比較に基づく基礎教育
課程の「一貫制」に関する理論的・実践的
研究()、日本カリキュラム学会、2013年
7月6日、上越教育大学(新潟県・上越市)

〔図書〕(計2件)

田中 統治、大高 泉(編著)、協同出版、
学校教育のカリキュラムと方法、302

〔その他〕

ホームページ等

[http://www.human.tsukuba.ac.jp/~kaken
b24/](http://www.human.tsukuba.ac.jp/~kaken/b24/)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田中 統治 (TANAKA, Toji)
放送大学・教養学部・教授
研究者番号：40128046

(2) 研究分担者

石崎 和宏 (ISHIZAKI, Kazuhiro)
筑波大学・芸術系・教授
研究者番号：80250869

磯田 正美 (ISODA, Masami)
筑波大学・人間系・教授
研究者番号：70212967

井田 仁康 (IDA, Yoshiyasu)
筑波大学・人間系・教授
研究者番号：20203086

卯城 祐司 (USHIRO, Yuji)
筑波大学・人文社会系・教授
研究者番号：60271722

大高 泉 (OHTAKA, Izumi)
筑波大学・人間系・教授
研究者番号：70176907

岡出 美則 (OKADE, Yoshinori)
筑波大学・体育系・教授
研究者番号：60169125

甲斐 雄一郎 (KAI, Yuichiro)
筑波大学・人間系・教授
研究者番号：70169374

片平 克弘 (KATAHIRA, Yoshihiro)
筑波大学・人間系・教授
研究者番号：70214327

窪田 眞二 (KUBOTA, Shinji)
筑波大学・人間系・教授
研究者番号：80170033

清水 美恵 (SHIMUZU, Yoshinori)
筑波大学・人間系・教授
研究者番号：90226259

庄司 一子 (SYOJI, Ichiko)
筑波大学・人間系・教授
研究者番号：40206264

塚田 泰彦 (TSUKADA, Yasuhiko)
筑波大学・人間系・教授
研究者番号：50163762

浜田 博文 (HAMADA, Hirofumi)
筑波大学・人間系・教授
研究者番号：20212152

樋口 直宏 (HIGUCHI, Naohiro)
筑波大学・人間系・教授
研究者番号：90287920

吉田 武男 (YOSHIDA, Takeo)

筑波大学・人間系・教授
研究者番号：40247945

唐木 清志 (KARAKI, Kiyoshi)
筑波大学・人間系・准教授
研究者番号：40273156

國分 麻里 (KOKUBU, Mari)
筑波大学・人間系・准教授
研究者番号：1056003

田中 マリア (TANAKA, Maria)
筑波大学・人間系・准教授
研究者番号：20434425

根津 朋実 (NETSU, Tomomi)
筑波大学・人間系・准教授
研究者番号：50344958

蒔苗 直道 (MAKINAE, Naomichi)
筑波大学・人間系・准教授
研究者番号：40345939